広報 高山の文化

No.122 2010.10.1 Culture in Takayama

車田の稲刈り（H22.9.17撮影）

社団法人 高山市文化協会発行

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel. 34-6550 Fax. 34-6877

メールアドレス●mail@takayama-bunka.org
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org
（文化会館の催し物案内はこのホームページでご覧ください。）

飛騨文芸祭に想う

飛騨文芸祭審査委員 林 格男（ただお）

高山市文化協会は、昭和四十四年の秋、協会主催の文化祭が第二十一回の節目を迎えるのを機に、広く市民から文芸作品を募る、という新しい文化活動を発足させた。

そして、八年後の昭和五十二年、それまでの高山市文芸祭を「飛騨文芸祭」と改称し、作品募集の範囲を飛騨一円から広く県下全域へと拡大した。

そこには①市民の中に「飛騨は一つ」という意識を高めたい。②文化に対する市民の視野を拡げ、作品のレベルの向上を図る。③「日本の心の故郷（ふるさと）」と言われている飛騨の本質を文芸を通して再発見したい―という熱い想いがあった。

あの時からすでに三十四年、着々とその成果が上がっていることは明らかで、こうした高邁（こうまい）な指標を掲げて、長年、地道な文化活動を推進してきた文化協会の見識は高く、尊い。

ところで、来年、世界の最高峰といわれているベルリンフィルを指揮することになった日本が誇る世界的な指揮者佐渡裕（ゆたか）（50歳）は、先日テレビを通して、「今回の幸運はすべて神の采配、神の恵みである」と語っていた。

佐渡裕の語りはいつも雄弁でスケールが大きく、私を語るのに私を超え、謙虚である。彼は音楽以前に、相手を魅了する語り口と温い人間性を持っていて、小学生や、さだまさしらの芸能人ともたびたび共演し、さらに「世紀の奇跡」と呼ばれている盲目のピアニスト辻井伸行を世界の舞台へと送り出した。

文芸は、音楽や映像とは異なり、文字を通して静かに人の心から人の心へと伝わっていくのが本質である。しかし、その文芸も個に生まれて個を超えなければ、その発展は望めない。

郷土出身の作家江馬修の『山の民』が、島崎藤村の『夜明け前』よりも高く評価される場合があるのは、『山の民』の表現（作者の執筆姿勢）が個を超えているのに対して、『夜明け前』はまだ個を抜け切っていないからではないかと、私は思っている。

今ここで、半世紀近くに及ぶ飛騨文芸祭の功績に触れている紙面の余裕はないが、三十四年前に掲げられた飛騨文芸祭の指標は、つきつめれば「これからの文芸は、個に生まれて個を超えよ」と、訴えているのではあるまいか。

文芸祭発足以来、多くの人々が文芸祭を目標として精進し、その指標を成就するに足る作品がいくつか生まれた。昨年度文芸祭の最高賞「文芸祭賞」に輝き、高山市民時報にも連載された上小屋旭の小説「琴高台」（主人公は名工・谷口与鹿）もその一例である。

第34回 飛騨文芸祭入賞者決まる

◆文芸祭賞　該当者なし
◆江夏美好賞　該当者なし
◆高山市長賞
小説　橋本　雅（高山市花里町5）
小説　野口喜代男（下呂市萩原町野上）
◆高山市議会議長賞
俳句十句　上田眞穂子（高山市昭和町1）
短歌十首　清水　文代（飛騨市宮川町西忍）
◆高山市教育委員長賞
短歌十首　須代　一郎（高山市国府町宇津江）
児童文学　橋渡　香織（高山市石浦町5）
◆社団法人高山市文化協会長賞
小説　青山　英彦（高山市一之宮町）
随筆　上小家　旭（多治見市希望ヶ丘2）
現代詩　坂口比斗詩（高山市七日町2）
現代詩　宮森　大輔（高山市高根町上ケ洞）
短歌十首　尾崎　珠子（高山市中山町）
短歌十首　和田　操（高山市上川原町）
短歌十首　今井　みち（下呂市萩原町奥田洞）
短歌十首　小林　伸子（高山市曙町2）
俳句十句　斉藤真砂子（高山市片野町1）
俳句十句　山下　守（高山市上一之町）
俳句十句　東濃　敬子（高山市中山町）
俳句十句　小林　高子（高山市八軒町1）
俳句十句　小県　孝子（高山市三福寺町）
◆青竜大賞　該当者なし
◆青竜賞
現代詩　日下部友香（益田清風高校2年）
短歌五首　森田絵理加（飛騨神岡高校3年）
短歌五首　平坂　真帆（飛騨高山高校3年）
短歌五首　片岡知紗希（飛騨高山高校3年）
俳句五句　上垣　佳可（飛騨神岡高校1年）
俳句五句　岩本　拓馬（飛騨神岡高校2年）
俳句五句　山下　茜（飛騨神岡高校3年）

（表彰式：11月14日（日）午後1時30分～ 於 高山市民文化会館）

クロノス TEL0577-35-1187 http://www.shiminj.co.jp

高山の文化を高めた人々 47

飛騨の暮らしを写真で残す 写真家 木下 好枝

都竹 祥子

女性写真家 木下好枝さんが逝って今年で五年になります。飛騨に生まれ育った彼女は、写真家の細江光洋氏に師事し、飛騨の人々のさりげない生活を撮り続けてきました。

昭和四十八年ころから山之村（飛騨市神岡町）を被写体に、厳しい気候や風土に生きる素朴な村人の生活を十年余り撮り続けました。

雪の伊西峠を歩いて越えたり、お堂に野宿したりして撮りまとめた写真が一九九一年、山と渓谷社から写真集『わたしの奥飛騨』として結晶しました。この時、高山市の地場産業センターで写真展も開催され、飛騨の原風景や風習を記録した数多くの作品を大勢の人たちに見てもらうことができました。

写真集の中には、今は失われてしまった飛騨の行事や風土、豪雪の中で生きる村人の姿が見事に描き出されています。そして木下さんの素敵な文章もさることながら、村人からも心から好かれていたことが良く分かる優れた写真集になりました。

ありし日の木下さん（岐阜新聞提供）

＊

木下さんを語る時に欠かせないのは、写真ともう一つはお酒です。煙草を吸い、飲むほどに話が弾み、男性的な考え方と飲みっぷりの良さもあって、よそ者を警戒する村人たちに溶け込むには時間はかからなかったようです。結婚式や法事などに合わせて村を訪れる彼女に村人は「昼飯でも食っていかんけな」と声をかけるまでになりました。

茶道を通じて出会った私たちは、登山や撮影旅行などに出かけ、よく抹茶をたてました。冷たい谷水で飲むととても美味しく、また山の稜線などでコーヒーを沸かし、のんびり登山を楽しんだものです。こんな時にも彼女はウイスキーや日本酒を忘れませんでした。

山之村で撮影した「雪の日」（岐阜新聞提供）

＊

彼女はまた、柳田国男、三島由紀夫、アガサ・クリスティー、土門拳などを愛する読書家でもありました。彼女の出版記念旅行の時は、山形県酒田市にある土門拳記念館に行きました。平成四年には第二回須田賞を受賞され、登山仲間と祝賀登山もしました。また、県展の「写真の部」の審査員に女性として初めて選ばれ、県展の発展に尽力されました。

その後、四十年余り撮り続けてきたネガフィルムの整理にかかり、次は高山線沿線の生活風土を撮るとはりきっていたのですが、病魔が彼女を襲いました。このため木下さんが写したたくさんのネガは高山市の郷土館に寄贈されました。

＊

今、木下さんの生き様を思うとき、『ポポロ』という喫茶店が思い出されます。その店主の牧下一己さんは、フルトベングラーが大好きで、画家・歌人・登山家としていろいろな人たちと交流がありました。

神岡の鉱山で働いていた牧下さんから教えられた伊西峠のトンネルの向こうにある山之村の話は、彼女にとってユートピアに思えたのでしょう。同じ六十五歳で亡くなった二人は、きっとカメラを首にかけ、好きなお酒を持って遠く北ノ俣岳を望む伊西峠を〝千の風〟になって越えたことでしょう。

＊

彼女は写真集『わたしの奥飛騨』にサインを頼まれるといつも次の言葉を書いていました。

「生きて己を知る 友 皆 師」

語りたき人は遠くに五月雨
断ち切れぬ友の思い出露の秋

都竹祥子

上高地にて（筆者左）

◆平成二十三年◆『飾り物展』作品募集

平成二十三年「飾り物展」の作品を次のとおり募集します。

テーマ ①平成二十三年の干支「兎」②平成二十三年の歌会始のお題「葉」

応募資格 市内町内会・屋台組等各種団体または市内在住の個人

応募点数 一団体（個人）一点（展示数に限りがありますので、先着順で締め切る場合があります）

応募方法 所定の申込書に記入のうえ、高山市文化協会へ提出（電話受付はしません）

応募期間 十二月一日(水)～十二月二十五日（土）午前九時～午後五時（日・月曜・祝日を除く）

展示会場 高山市民文化会館

展示期間 一月十四日(金)～十六日（日）午前十時～午後八時（最終日は午後四時まで）

搬入 一月十二日（水）午前九時～正午

※出品者の責任で飾り付けてください。スペースは約幅百センチ、奥行九十センチ

問合せ先 （社）高山市文化協会（電話三四－六五五〇）

道伝えの日 芭蕉忌句会 俳句募集

高山市文化協会では、さまざまな伝統や文化を後世に継承しようと、平成十七年度から高山市文化伝承館において「道伝えの日」事業を行っています。

その一環として、次のとおり「芭蕉忌句会」を開催します。句歴は問いません。たくさんの方々のご応募をお待ちしています。

出句 題詠句（曼珠沙華）と当季雑詠句の各一句ずつ。はがきに作品二句と住所・氏名・電話番号を楷書で明記し、〒五〇六－〇〇五三 高山市昭和町一－一八八 高山市文化協会へ

締め切り 十月二十日（水）

句会

日時 十一月二十日（土）午後一時～

場所 高山市文化伝承館

平成23年 新年市民互礼会のご案内

新年を祝う「市民互礼会」を次のとおり開催します。どなたでも参加できます。

お申し込みは、11月10日(水)までに文化協会事務局へ、はがき、FAXで。

名刺交換に代わる芳名録を作成しますので、申し込み期限をお守りください。

◆**日時** 平成23年1月1日(土) 午前11時30分～
◆**場所** 高山グリーンホテル
◆**会費** 6,000円（干支盃・芳名録を含む）
◆**申し込み先** （社）高山市文化協会 (FAX34-6877)

道伝えの日 お月見歌会 ●入選作●

道伝えの日事業として、「お月見歌会」を開催しました。入選作を紹介します。

◎一般の部

◇課題歌「月」

天位 満月に「おうおう」と言いて手をのばす幼子の目がさらに輝く 廣瀬 正男
地位 よしずごし弦月を見る秋の夜は犬の寝息もしずかなりけり 門前 吉之
人位 月を見て泣きたる学徒動員の我らの何と幼なかりしか 中村 和子
人位 暮れなづむ山端に昇る満月の冴ゆる光に身を浸しゆく 坂上八重子
人位 義母にとり延命治療は幸せか夫と見上ぐる雲間の月を 西野 紘子
選者推薦歌
義母にとり延命治療は幸せか夫と見上ぐる雲間の月を 西野 紘子
奥美濃はいも明月とて里芋の初どりかざると友は語れり 堀内 善雄

◇自由歌

天位 山一つ向うにあがりし遠花火ひそと消えゆき闇深まりぬ 後藤 滋子
天位 無人駅に電車停るもひっそりと風のみ乗せてドアがしまれり 西本与志子
人位 閉店をまじかに駆け込む人のあり仕事帰りか木の香をさせて 岩畑 正子
人位 雪残る山畑に光打込みて夫は生き生き初仕事する 荒井 和枝
選者推薦歌
じゅうぶんにしあわせなのに幸せになれる小石をくれると言う君 尾崎 珠子
虫の声ともに聞かんと耳遠き夫をうながし城山めぐる 元田 鈴子

◎高校生の部（順不同）

【飛騨神岡高校】

優秀歌

十六夜や来年この月どこで見る進路で悩む十八の秋 三年 内野 涼
帰り道微かに光る木の実一つ満月が告げた秋の始まり 一年 河上 琴美

入賞歌

秋の夜に月の光りに照らされて悲しい気持ち光に溶ける 一年 林 鐘継
たくさんの国があっても人がいても月が照らす地球はひとつ 一年 中家 瑠美
月明り君の横顔照らされて高なるこどうがばれないように 二年 清水 佳祐
涼しい夜たいそうすわりで月ながめ思いうかべるあなたの顔を 二年 吉野 美紗
満月を追いかけるけど追いつけないあなたを思う気持ちみたいだ 二年 久保祥太郎
夜空にはまあるく光る月ひとつ未来を明るく照らしてほしい 三年 大川亜沙美
秋の夜月の光が映す影唯一の自分と向き合う時間 三年 川上恵里奈
夜の空一緒に見たいと思っても素直に言えない三日月の夜 三年 森田 千晴

【高山工業高校】

優秀歌

白い月窓から見える授業中にじんでしまったあくびの後で 二年 大澤 香奈

入賞歌

今日はもうおわってしまうやり残した事はないか？と月が見ている 二年 熊崎 彩花

【高山西高校】

入賞歌

月の裏僕らの知らぬ秘密ありいつか必ずあばいてみせる 一年 中垣内竜二
満月のような自信が欲しくともテストの前はいつも三日月 一年 谷向 優也
この空に一つしかない月だけどそれぞれの国でひょうじょう変える 一年 槇本 崇志

【飛騨高山高校】

入賞歌

月を見てさみしい気持ちふくらます歩いていくとそう決めたのに 二年 楠 いつみ

「岡目一目」

暑い熱い夏が終って、新しい市長や総理大臣が決まって、また涼しくなった。

党首候補がテレビで「新しい政治文化」と言ったので、オヤッと思った。

「政治に文化がある？」と言ってしまえばそれまでだが、要はシコリを残さないということらしい。

民主主義ではどんなに激しく対立して論争しても、決着が付けば従うのがルール。

敗けても党を割ったり、再編しないという文化らしいが、スポーツでは昔から当たり前のこと。エールの交換というのは先ず相手を称える。そう言えば「ノーサイドで」なんて言葉も出ていた。

「政治文化」と言われて「文化」とは何か考えた。もし人々が美しく感性を磨き、暮らしや世の中をより高きに導くものが文化であるなら、政治もまたそうであって欲しいと思う。

どこかの週刊誌に「政治とは異なる意見をまとめるアートである」と書いてあった。アート！

坂本龍馬が時代を超えてカッコイイのは、本質は詩人であったからではないでしょうか。

林格男さんが今号に書いておられる。個を超えて、より高き普遍的な発展をせよと。

芸術の秋である。

〈ガンモンモ筆〉

下條アトム・川島なお美 主演 演劇「とんでもない女」公演決定！

川島なお美が下條アトムと競演！社会問題を織り交ぜ、笑って泣ける人情喜劇。

期日 平成二十三年二月二十三日(水)

時間 午後七時開演

場所 高山市民文化会館 小ホール

料金 メセナ二、五〇〇円 一般三、〇〇〇円 全席指定

発売日 平成二十三年一月八日（土）午前十時より

販売所 高山市民文化会館・福栄楽器・（有）コサカ楽器本店・（有）コサカ楽器カルパティオ店・古村ミュージックセンター

（社）高山市文化協会加盟団体 催事のお知らせ

日本舞踊にしたしむ 文化のつどい

日時 十月三十一日(日) 午後十二時開演

場所 高山市民文化会館 大ホール

入場料 無料

主催 高山日本舞踊協会

日本舞踊の古典など、所作事を理解し、親しんでいただきたいと思います。